

宮城・石巻の復興援助を継続 ニート支援のNPO奮闘中!



「息の長い支援が必要」と布施さん。同団体の公式サイトは <http://ameblo.jp/fairtrade-t/>

物資の提供を呼びかけるなどして食料や生活用品などを調達している。被災を免れた民家で複数の世帯とともに暮らす被災者は、とり

東日本大震災で壊滅的な打撃を受けた宮城県石巻市で、震災直後から支援活動が続いているNPOがある。ニートの自立支援を行う「フェアトレード東北」だ。

代表理事の布施龍一さん(35)は津波で胸まで水に浸かって仲間を捜した。メンバー6人全員で行政の支援が届かない民家や避難所に向き、支援ニーズを聞き、ブログで

わけ行政の目が届きにくい。自力で食料の買い出しに行けない高齢者は、布施さんらの支援活動だけが頼りになる。

ゴールデンウィーク期間中は県外から70人のボランティアが集まったが、以後は再び6人で活動を続けている。現場では時に行き違いもあるという。「県外のボランティアが避難所に生モノを大量に持ち込み、私たちが急ぎよ冷蔵

庫を用意したこともありました」(布施さん)

逆に、NPO本来の活動趣旨に沿う「うれしい誤算」も。これまで自立支援を受けていたニートの若者が被災者に要望を聞き取りに行って感謝され、「社会に必要とされている実感」から生きる自信を取り戻したこともあった。

だが同市の一部では、自衛隊の検査で生活用水に使っていた湧き水からヒ素が検出されるなど、余震以外にも予断を許さない状況が続く。復興支援は長期化が予想され、活動資金面でも苦境に立つ。移動用の車の燃料など活動経費は既に300万円以上。布施さんが貯金を切り崩して賄っているが、既に底をつきつつある。「被災世帯に配られる義援金と異なり、NPOなどの支援活動に対する支援金は企業や財団などが積極的に援助しない限り、お金は入らない。地方のNPOはなおさら厳しい」(布施さん)

復興支援には地元NPOの活動が不可欠。寄付のあり方を今一度、見直すべき時期だ。

(今 一生)